

日本技術士会会长賞を受賞して

長崎県技術士会 理事 松尾 稔  
(電気電子部門)

正直なところビックリしました。青天の霹靂とはこのことかと思うほど驚きました。最初、受賞を知らせる書類が送られていましたが、まさか私のこととは思いもしなくて放置しておりましたら、記念品が贈られて何かの間違いかと事務局に問い合わせたところ「受賞おめでとうございます」と言われてびっくりしました。推薦していただいた方々には改めてお礼を申し上げます。

私よりもまだ受賞にふさわしい方が居られたであろうに差し置いて申し訳ないような気持ちです。これも偏に皆様方のご支援によるものと感謝しております。

私は火力発電関係のコンサルタントを長年続けてまいりました。

海外の電力会社が発電所を建設する場合、最初にフィージビリティースタディーと言って、建設して採算に合うのかどうか、環境に与える影響、燃料、水などの供給が可能か否か、将来も含めた電力需要はどうかなど等を調べ、資金の調達先等との交渉をする場合もあります。

建設が可能となったら、基本設計をして、入札仕様書を作成して国際入札にかけます。最適なメーカーの選定をして電力会社に推薦します。

メーカーが決定したら、詳細設計、建設、試運転、運転開始まで進みます。

私が体験した或る東南アジア向けのプラントで

は環境対策として、機器の発生する騒音を最大 80 dB、敷地境界で 60 dB 以下と指定し契約しました。ところが、試運転の結果異常に高い騒音を発する機器があり、計測したところ 120 dB もありそのプラントメーカーに改善を要求しました。

メーカーの言い分は「今頃そんなことを言われても困る。性能が出ているのでいいのではないか」ということでした。私は「今頃言い出したことではなく、契約書に明記している。環境問題は重要事項なので対策を講じてもらいたい。性能が出ているとはとんでもない。騒音も性能の一項目です。120 dB なんて性能が出ていないではないですか。契約違反です。」と申し上げました。

更に、プラントメーカーの言い分は、「この機器は外注したもので自分の会社の違反ではない。悪いのは外注メーカーだ。」

私は「契約仕様書のこのページに、“外注した機器の性能はプラントメーカーが責任を持つ”ことを規定している。」と対策を早急に提出するように要求しました。

しかし、コンサルタントの弱みは電力会社とは契約の期限があり、この期間内には解決しないので、懸案事項として電力会社に書類を残すことにしましたが、実際問題としては解決されないまま今日に至っているものと推察します。

次に中近東の国に納めたプラントのことです。

当然のことながら契約書で危険物質として「アスベスト」の使用を禁じていました。プラントが完成に近づきメインテナンスマニュアルの整理をしているときにアスベストが使用されていることが

判明しました。

それまでの図面のやり取りでアスベストの使用を明記した図面がなかったか、調べましたが、アスベストの使用を明記した図面はありませんでした。

そこでプラントメーカーの担当者にアスベストが本当に使用されているのか確認したところ、確かにアスベストであることが判明しました。

私は別の材質に変更するように要求しましたところ、担当者は「他の材質に変更したら性能が違うので、機器の寸法が変わってくる。すなわち、機器を取り換えるなければならない。その費用は負担してくれるか」と恫喝まがいの言葉で脅していました。

私は「契約書でアスベストを使用してはならないとなっている。仮に仕様書に記載されていなくてもアスベストを使用しないのは常識ではないですか」と申し上げましたが、その担当者は納得せず、「機器の変更をせよと言うなら、機器の変更の費用、輸送費、納期遅延のペナルティーを含めてお前が払え」とあたかも私にミスがあるかのような激しい言葉で脅してきました。

理不尽なやり取りの例を2件挙げましたが、日本の大企業の担当者は世界で日本製品の評価を落とすような振る舞いは厳に慎んでいただきたく書きたくない事柄ですが、敢えて苦言を呈します。

日本人の体に良くないことはどこの国の人々にとってもよくないことです。

発電所の建設などはほとんど世界銀行、国際協力銀行、アジア開発銀行等の融資を受けて建設されますが、それぞれの環境基準を持っており、それに適合しない場合は融資がされないことがありますので担当者段階でも認識をお願いしたいものです。

技術士登録を経て

MHI ソリューションテクノロジーズ（株）

安武 昭典（化学部門）

私は準会員から平成27年度（2015年度）の技術士二次試験を経て技術士登録を行い、正会員として皆さんの輪の中に加えていただきました。この度、川村副会長からの投稿のご依頼を受け、技術士技術士試験を振り返り、今後の活動の希望をお示ししたいと思います。

### 1. 技術士を目指す切掛け

私が元所属していた三菱重工業㈱では、近年技術士を志向する技術者が増加して、三菱技術士会が結成されており、長崎地区でも活動が継続されています。今回、投稿のお誘いを頂いた川村副会長も世話人の一人で、お声掛けを頂きました。

しかし、私個人としては、平成10年代以前は、技術士は「そのような方がいらっしゃるんだ」、若手の研究者が登録したことを聞いて「頑張っているな」程度の認識でした。しかし、平成19年から二年間広島に転勤となり、地域性か社内の技術士の研修会への参加や試験受験が盛んで、また、資格の掲示もあり、刺激を受けました。そこで、長崎に戻った後平成21年（2009年）に一次試験を受験し刺激の御蔭か五十の手習いでも合格させていただき、今回の二次試験受験のスタートラインに立てました。

### 2. 技術士試験

記述式が中心の二次試験に関しては、職場での報告書の経験が活かせると思って高を括っていましたが、今の職場へ移籍後、思い立った平成24年（2012年）に試しに受講した講習会での論文事例を拝見・拝聴して、「ん？」の世界で、通信教

育、講習会への参加で、自分の癖の直しにかかりました。結局、平成25年（2013年）から平成27年（2015年）の3回の受験で記述式を突破し、口頭試験へたどり着きました。最初の2回は、選択問題の専門知識及び応用能力又は課題解決能力のどちらかが「B」判定で、総合的に「B」となり、不合格でした。要因の一つは、専門性の点で不正確な記述をしていることが原因ではないかと自己分析し、3年目は記述法に加え、過去問題の範囲での専門的内容の深みを再学習してみました。平成27年（2015年）度の問題では、不適合への対応方法も試験課題の対象となったこともあり、職場でのコンプライアンス教育が活きた形で何とかクリアできたのではと思います（平成28年（2016年）度の問題も確認すると同じ傾向でした）。

初めての口頭試験では慣れも必要と考え、講習会へ参加して先生方にご指導を仰ぎました。また、会社の後輩には想定問答を中心に模擬口頭試験やテープへの吹込みを手伝ってもらい、お蔭で合格を頂けました。

ここで、表に出にくい口頭試験の様子をちらっとご紹介します。

試験官は2名で技術者風の方と教授・役人OB風の方でした。予想に反して、終始にこやかな顔で、当方を見ながらの質問でした。進行は主に技術者風試験官が質問し、他方の試験官は補足と技術者倫理、技術士合格後の予定の質問でした。私は専門科目を「燃料及び潤滑油」で受験したのですが、お二方とも繰り返し質問されたのが、なぜ燃料の科目にこだわるかでした。経歴書には燃料に関するを中心記載していましたが、発電燃料への関わりの記載が、試験官にはプロセス、化学分析が専門

に読み取れたのかもしれません。入社以来何らかの形で関わったのが、発電用燃料であったこと、またその排ガス処理に関わったことを中心に回答してある程度の納得は頂けたようでした。

### 3. 技術士としての今後

現在は、企業内技術士で、特に活動らしいことはありませんが、まずは県内の活動の把握のために、本技術士会の講演会や九州本部のCPDへの参加からはじめています。また、グループの三菱技術士会にも参加させていただき（まだ名前だけですが）、今後、徐々に社内の活性化に寄与できればと思っています。また、部門の化学はまだ技術士のニーズもよく把握できており、特に専門科目の「燃料及び潤滑油」は受験者も限られ、仲間も限られるようですが、皆さんの活動に徐々に参加させていただき、県内の企業、産業への貢献ができるように精進し、ゆくゆくはアジア圏を中心に途上国への貢献ができればと思っています。

まずは、自分の専門性を磨き、社会のニーズ把握からはじめてみようと思います。本技術士会、皆様のご指導を仰ぎながら、新米技術士からの脱皮をと思っていますので、今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

長崎県技術士会のホームページのリニューアルについて

山口和登（応用理学部門）  
古賀脩一朗（修習技術者）

長崎県技術士会のホームページは平成18年度より運用を開始しました。今年度から11年目になります。昨年度までは、NERCのサーバーを介してログオンしてきましたが、ホームページを担当

していただいた西村博崇技術士が今年の3月末をもって NERC を退職されたので、運用面で多少の不都合が生じてきました。具体的には、追加・修正などが NERC の PC 管理者しか行なえませんので、会員（西村氏）が退職された事で、その連絡などが簡単にできなくなつた次第です。

この件をきっかけに、ホームページ（ウェブサイト）のリニューアルを図り、ホームページ活用の利便性を向上させる事としました。今回のリニューアルにおいて、ページアドレスの変更を行ないました（右記）。ブックマーク等にご登録の場合、お手数ですが変更作業をお願いします。

今回のホームページは、基本的には旧来のスタイルを踏襲していますが、今後は内容の充実及び変更を図り、より便利で役立つサイト運営を心掛けたいと思います。内容についての要望などがありましたら、ご意見等よろしくお願いします。ま

た、誤記がありましたら、下記まで連絡をお願いします。直ちに修正等は可能です。

基本的には、山口と古賀で当分の間は管理・運営をしていきたいと思いますが、会員であればどなたでも管理・運営できるホームページにしたいと思っています。

なお、新しいホームページは10月より運用していますので、ご興味をお持ちの方は是非アクセスしてください。

リニューアル前のアドレス：

<http://www.nerc.or.jp/APREN/>

↓

リニューアル後のアドレス：

<http://www.apren.jp>

連絡先：長崎県技術士会 会長 山口和登

E-mail: yamaguchi@knchiken.co.jp

#### ※ 機関紙発行担当からのお知らせ

##### （1） 12月までの技術士会関連の行事予定

10/19：（公社）日本技術士会長崎県支部主催の CPD 見学会  
共催：長崎県技術士会

10/26・27：ながさき建設技術フェア 2016  
主催：公益財団法人長崎県建設技術研究センター  
共催：長崎県 後援：長崎県技術士会他多数

11/11：産業基盤維持管理技術研究会主催の見学会  
後援：長崎県技術士会

11/17：長崎地盤研究会主催の見学会  
後援：長崎県技術士会

12/3：（公社）日本技術士会長崎県支部主催の CPD 研修会  
共催：長崎県技術士会

12/16：長崎地盤研究会勉強会「ジオラボ」  
後援：長崎県技術士会

\* それぞれの詳細は別紙案内等を参照ください

##### （2） 新入会員紹介（8月役員会承認）

（区分）	（氏名）	（部門）	（所属）
A会員	中川 勝行	上下水道	（株）創建
B会員	藤永 哲哉	応用力学	（株）創建
B会員	西村 政広	建設	（株）創建

（3） 新しく技術士試験に合格された方や日本技術士会長表彰の記事を編集していると、懐かしくこれからもっと継続研鑽の必要性を感じます。今年も、長崎県技術士会の行事が多く予定されています。多くの会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

※ 機関紙発行担当の連絡先 園田直志

sonoda\_naoshi@icloud.com